

令和3年度【家庭科】授業改善推進プラン

文京区立第八中学校

学年	課題の分析	授業改善の視点	成果と課題
1 年 生	<p>①前授業の復習や反復練習を行い、本授業とのつながりや目標をもたせることで、意欲・関心をもち授業にのぞむ生徒が増えた。</p> <p>②基礎的な知識や技能を習得できている生徒が多いが、応用力や発展した考えを求める課題に積極的に取り組めない生徒が少なくない。</p> <p>③習得した知識や技能を家庭生活で活用し、体験して学習する機会をもととする生徒が少ない。基礎的な技術の習得や道具の扱い方に苦手意識をもつ生徒がいる。</p>	<p>①単元ごとに家庭ノートやワークシートで授業のまとめを行い、知識、技能の定着を図る。衣服の手入れ方法など生活の中の身近な課題を取り入れ、興味や関心を高めていく。</p> <p>②生活の中の課題を設定しそれぞれが考え整理したレポートやワークシートを基に発表したり話し合う機会を増やし、創造力や発想力、表現力を広げられるように指導する。</p> <p>③家庭生活で活用できる課題を取り入れ、裁縫や調理器具の扱い方、洗濯実習などの体験の場を増やし、基礎的な知識、技能の定着と向上を図っていく。</p>	
2 年 生	<p>①成長期と健康な体づくりには食生活がいかに大切であるかを理解し、関心、意欲をもって授業をうけている生徒が多い。</p> <p>②コロナ禍で調理器具の扱い方や作業経験の場となる調理実習が難しいため、家庭で調理の体験をしている生徒としていない生徒では技術差ができてしまう。</p> <p>③習得した知識、技能を家庭での食生活に活かし栄養を意識する生徒が増えたが、技術を活かして調理などの機会をもつ生徒は少ない。</p>	<p>①基礎的な知識、技能を確実に定着させるために、ICTを活用し例題を数多く用いて考察させる工夫をする。</p> <p>②調理実習ができない場合は家庭での体験学習の課題を設定し、練習の機会を増やすことで基礎的な知識・技能の定着を図り技術差を改善していく。</p> <p>③習得した知識や技能を活用する生活の中の課題を設定し、調べ学習や調理などの体験学習に取り組みせ、知識力や技術力を定着させ、さらに工夫・応用・発展できる能力を育てる。</p>	
3 年 生	<p>①幼児の生活に自分の幼い頃をリンクさせながら、興味・関心をもち授業に取り組む生徒が多い。身近に幼児と触れ合う機会をもてる生徒は少ない。</p> <p>②幼児に関する知識を活かし、製作やワークシートの課題に意欲的に取り組む生徒は多いが、自分の考え方を応用・発展させ、文章にまとめ発表する課題に消極的な生徒が多い。</p> <p>③衣、食、住の分野を学び、家庭や地域の仕事に出来ることが増え、支える立ち場になりたいと思う生徒は多いが、その機会をもてる生徒は少ない。</p>	<p>①幼児への関心、理解を深められる教材や課題を工夫する。自分の幼い頃と重ね合わせ幼児の成長を理解し、知識の定着を図る。</p> <p>②11月予定の幼稚園訪問が実現できたら幼児との触れ合い活動を実習する。習得した知識を活かし試行錯誤する中で、思考力、判断力、表現力を高める指導を行う。</p> <p>③成長と共に家庭や地域の仕事に進んで参加し協力出来ることを増やす。支えられる立場から支える立場になるために知識、技能の定着を図り、実践する能力を育成する。</p>	